



学校通信

令和6年6月28日
東京都立葛飾盲学校長
岩下 桂郎
(第4号)

合理的配慮について

校長 岩下 桂郎

暑い日が続き、アジサイもまるで雨が降るのを楽しみにしているかのようです。学校は、いよいよ水泳が始まりました。まだ水はひんやりとしていますが、たくさんの水しぶきを上げて元気に泳いだり水中活動をしたりする子供たちの姿がきらきらとまぶしいくらいです。

さて、4月から改正差別解消法が施行され、学校やお店、交通機関などすべての事業所で「合理的配慮の提供」が義務化されました。これにより、障害のある人から「社会的なバリアを取り除いてほしい」という意思が示された場合には、そのバリアを取り除くために環境を変えたり、やり方を工夫したりすることがどの施設でも求められるようになりました。誰にでも優しい社会の在り方として、新聞等でも目にするものが多くなったように思います。

視覚障害者への合理的配慮として、点字表記や点字ブロックなどがすぐに思いつきます。一方で「スーパーなどでほしいものが探せない」という身近なバリアには、なかなか対応する設備を備えた施設が少ないのではないのでしょうか。

配慮を求めるにあたっては、「コミュニケーション」が重要なポイントとされています。本人やその周りの人が「困っていることを相手に明確に伝えること」が大切です。「何に困っているのか、そのためにどのような配慮をしてほしいか」について、具体的に説明し、自分の願いがすべてかなわない場合にも、相談を続け、相手との折り合いをつける交渉が重要になります。

御家族で買い物に行った際は、本人の欲しいものを取ってあげるだけでなく、お店の方に相談して商品のある場所へ連れて行ってもらうなどの依頼をする場面を作り、お子さんの交渉や相談のスキルアップを手伝ってあげてください。

「演劇鑑賞教室」

6月13日(木)に日生劇場へ行き、ミュージカル『ジャック・オー・ランド〜ユーリと魔物の笛〜』を鑑賞してきました。会場に入ると、まずその大きさにびっくり。子供たちは「すご〜い」と歓声を上げていました。座席に座り「あと何分？もう始まる？」と開演を待ちわびていました。劇が始まると、役者さんの歌声に圧倒されていましたが、しだいに楽しそうなダンスの曲や歌声に合わせて、体を弾ませながら話を聴き入っていました。座席のすぐ横を役者さんが歩いたり、目の前で歌いだしたりと本物の演劇を肌で体感し「ドキドキした。」「迫力満点ですごかった。」と興奮していました。今日感じたことを、11月に行われる本校の学芸会でも生かしていきたいです。

(文責: 後藤 美由紀)